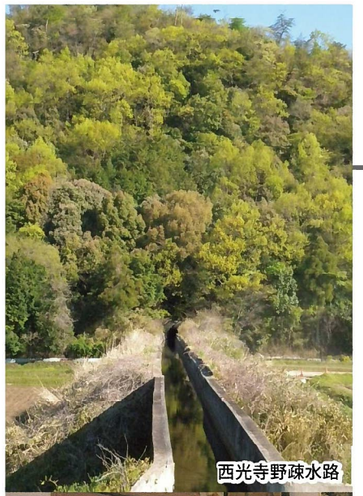
西光寺野疎水路

莚機

田口奥池

ため池・疎水と生業

弥生時代に農業が伝わって以来、福崎町の生業は農業が中心でした。

豊作を祈願・感謝した祭り・行事や溝普請などの共同作業は、地域コミュニティの絆を深める重要な役割を果たしてきました。そのなかで、人々は、ため池の築造や疎水の開削などにより、厳しい自然条件を克服して、広大な農地を拓き、また、莚・叺の生産などの副業、酪農や醸造業などの諸産業を育み、安定した暮らしと地域の発展を支えてきました。

先人が築き上げてきた豊かな生業の場は、現在も米づくり、そして特産のもち麦の栽培などが行われ、美しい風景を受け継ぐとともに、人々の暮らしと町の発展を支える重要な役割を担い続けています。

■福崎の生業・米づくり

弥生時代には本町域にも米づくりが伝わり、稲作を中心とした生活が始まりました。米づくりに関する遺物としては、籾の痕が残った土器や石包丁が見つかっています。以来、米づくりは福崎町の生業として、人々の暮らしを支え続けています。

籾の痕跡のある土器片
（宮山遺跡）

江戸時代には新田開発がすすめられ、農業技術も進歩し、生産性が飛躍的に上昇しました。当時の農業の様子は、近隣都市の寺社に奉納された絵馬（早川神社（姫路市）や埋田神社（神河町）の四季農耕図絵馬など）から知ることができます。また、明治31年（1898）に三木家の雇用人が記した年間の業務記録『農業日誌』からは、明治期の福崎における米づくりの様子を知ることができます。

歴史民俗資料館には、1年の農作業（苗代、播種、荒起こし、代かき、苗取り、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、俵しめ）を行うことができる多くの農具を所蔵しており、わたしたちの先祖が改良と工夫を重ねてきた米づくりの苦労を知ることができます。

■農地の開発

江戸時代中期以降、本町域においても数多くのため池が築造され、新田開発が進められました。また、寛政元年（1789）の大庄屋三木通庸による犬ヶ鼻の岩をくり抜いた水路の開削や、天保年間（1831～1845）から明治期のビワクビ疎水路の工事など、用水路の整備も進められました。なかでも、本町域での最も大掛かりな開発は、西光寺野の開発でした。

ビワクビ井堰記念碑

■西光寺野の開発

田原村・八千種村と山田村・船津村・豊富村（現姫路市）にまたがる西光寺野は、肥沃で水田に適していましたが、微高地のため灌漑用水を得ることが困難で、原野のまま田原庄12村の入会秣場になっていました。

近世後期に姫路藩の命により、新田開発が試みられました。その経過は、開発を主導した三木家に残る『西光寺野御新開一件控』5冊から知ることができます。この開発で23町歩余の新開地が生まれましたが、『庄区有文書』には、慶応4年（1868）頃、小松の生えた薪採り場となって、姫路藩の鉄砲の試射場にも使われていたことが記されており、必ずしも成功したとはいえませんでした。

明治時代末の調査により、瀬加村の岡部川（現市川町）を水源とし、延長約8.8kmの水路（西光寺野疎水路）により、西光寺野にため池を築造することになりました。大正3年（1914）に水利工事、翌年に耕地整理が完成し、西光寺野の開発が完了しました。なお、これにより、近世の新田開発地の大部分が池として消滅しましたが、桜下池周辺の小字に「新開」の名前で名残をとどめています。

西光寺野疎水路の煉瓦トンネル

■自然との闘いの歴史

江戸時代の寛延一揆（1748～1749）は、旱魃と台風による凶作が引き金の一つでした。このように、本町域では、風水害や干害が多く、洪水も頻繁に発生していました。

昭和に入り、戦前最大の災害は、昭和8年（1933）の大降雹でした。神戸新聞では「突如物凄い雷雨を伴ひ　大旋風猛威を揮ふ　死傷者三百余ー家屋の倒壊算なし」と報じており、被災した八坂神社千年松の根株は、覆い屋をかけて保存され、その被害の大きさを伝えています。

戦後は、戦時中の山林伐採のため、水害が相次ぎます。大型台風の襲来も多く、被害が拡大したことから、1950年代から植林や河川改修工事が進められ、防災対策が講じられてきました。

昭和38年の集中豪雨
による水害（月見橋）

■近代以降の副業と諸産業

近代以降、農業の副業としての莚・叺の製造をはじめ、酪農、燐寸小箱素地やクレー（陶土）の生産、清酒などの醸造業、瓦産業などの諸産業が展開しました。また、松茸の産地としても有名で、秋になると臨時松茸列車が増発され、阪神地方からの茸狩り客で福崎駅周辺は大変ないぎわいとなりました。

【莚・叺】

明治時代から昭和30年(1955)頃まで、神崎郡の特産品として、兵庫県内で有数の産額を誇った産業に、莚・叺製造があります。莚は、稲わらを織ってつくった敷物で、住居の敷物、農作業などに使用されました。叺は、莚を二つ折にして左右の両端を縄で縫い綴じた袋で、穀物、肥料、塩、石炭などを入れました。

莚

明治初年には山田村（姫路市）、八千種村で製造されていた莚・叺は、日清・日露戦争の軍用叺の供出により飛躍的に発展しました。大正末期には神崎郡内のほとんどの農家に、莚・叺を織る機械が備え付けられ、郡の中心的な副業として経済を支えましたが、戦後の高度経済成長のなかで、紙袋・麻袋・ビニール袋に押されて、消えていきました。

叺

【酪　農】

莚・叺の生産による地力の消耗を補給するため、明治時代末頃から酪農が推奨されました。明治41年（1908）、西光寺野の開墾地に奥平農場が開設し、大正9年（1920）には日本練乳会社(後の森永製菓株式会社)仮受乳場が福崎村に誘致されました。しかし、昭和6年(1931)、工場は事業不振のため閉鎖し、以後、販路を阪神間の工場に求めていきました。

■特産品「もちむぎ」

福崎町では、古くから大麦の一種であるもち麦を栽培して、団子として食べられていましたが、食生活の変化に伴い、昭和30年代には栽培しなくなりました。その後、昭和58年（1983）より特産物づくりを検討し、町にゆかりのあるもち麦の栽培を推進し、現在、もちむぎ麺、もちむぎカステラ、もちむぎ精麦など、多くの特産品が開発・販売されています。

もちむぎ商品

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
ため池・疎水・農業と文化的景観	・長池 ・桜上池・下池 ・姫ヶ池 ・西の池 ・大歳谷池 ・大日池 ・西光寺野疎水路 ・ビワクビ井堰 ・堰溝 ・もちむぎ（もち麦畑・各所）	・長池 ・宮の池 ・ミろく池 ・苅又池 ・鴻池 ・もちむぎ（もち麦畑・各所）	・田口奥池 ・矢口奥池・中池・口池 ・神谷皿池 ・前池（神谷） ・東光寺池 ・板坂奥池 ・直谷池 ・もちむぎ（もち麦畑・各所） ・矢口林道からの風景
用水開削・ため池築造等の記念碑	・新渠碑 ・ビワクビ井堰記念碑 ・大門大歳谷池　池供養之塔	・柳谷池　難波寿輔頌徳碑	・田口奥池　溜池新築記念碑 ・新町井堰改修記念碑 ・山崎水路改修記念碑
民具（生業・農業関係）	・歴史民俗資料館等の収蔵民具（莚、叺、莚機、脱穀用具、耕起具など）	―	―
災害・防災に関連する遺構・遺物	・八坂神社千年松株 ・固寧倉扁額（歴史民俗資料館蔵）	―	・固寧倉